

2024年(令和6年)9月20日(金)1面

スペーシャリストの会ら

スペーシャリストの会東北支部(千葉一博支部長)ら
は17日、「空間情報活用講演会」を開催し、約100人が参加した。最新の測量デザインや災害対応に関する講演に耳を傾け、進化する技術を共有した。

あいさつで千葉支部長は「私たち空間情報技術者は、自然災害が発生するたびに社会に対する責任の重さと使命を強く感じている」と述べ、「災害時には迅速かつ正確な空間情報の提供が不可欠。災害予測から復旧に至るまで私たちの技術はあらゆる段階で活用され、被害の最小化と復興の効率化に貢献している。だからこそ私たち技術者が担っている重要な使命だと力を入れている」と述べた。

スピーチリストの会については「空間情報の専門知識を持つ技術者が企業や組織の枠を超えて自主的に活動し、情報発信や技術者同士の連携を促進している」と紹介。講演会もその一環であることを伝え「進化する技術を共有し、お互いに学び合う場になる。」

特に災害対応においては私たちの知識や技術が命や生活を守るために大きな役割を果たすことを常に意識し、学び続けることが大切」と呼び掛けた。

講演会では芝浦工業大学工学部の中川雅史教授による基調講演と、東北地方整備局の佐藤彰技術調整管理官による特別講演のほか、メーカー講演や東北支部会員の講演が行われた。

このうち基調講演では中川教授が「都市のデジタルツィン

た。

中川教授による都市のデジタルツィンとは、現実空間をデジタル地図化するだけでなく、再現した地図を使って都市のシミュレーションを実施し、どうしたら都市の課題を解決できるかについて最適化することだという。

これからの測量に関して中川教授は、高精度なD地図を作るだけの視野から脱却し、データサイクルを意識した測量へ転換する必要があると指摘。

サイクルとは現実空間における課題を地図空間に投影・

進化する測量技術共有

ンに対応する測量のデザインについて説明した。中川教授は人材育成とDX(デジタルトランスフォーメーション)で何をすべきかを示すとともに、「測量するだけでは満足してしまふ状況からの突破が必要である」とを説いた。

抽象化し、これをデータドリブン(データに基づく意思決定)な分析や予測によって最適化することで現実空間に再投影・反映させ、課題解決につなげる、課題が本質に解決したかどうかを観測するためにデジタル空間を用い、そのようにしてデータを回していくこととした。

都市のデジタルツィンを実現するためにはこうしたデータサイクルが必要と説き、さ

らには測量を深化させるための教育のあり方や、進化のための測量のデザイン、変化に対応するための戦略について解説した。

特別講演では佐藤技術調整管理官が「東北地方整備局における災害対策等」について、メーカー講演ではリーグルシヤパンの佐々木公二氏が「ハイエンドモデルTLS/UA LiDAR最前線」について説明した。

空間情報活用の講演会開く



中川教授が「都市のデジタルツィンに対応する測量のデザイン」について基調講演した。

最後に東北支部会員の講演では寒河江測量設計事務所の大沼啓一氏が「三次元測量技術による立体的な災害対策」について、アイワ技術サービスの佐々木茂氏が「MMS導入決断と結果から見た設備投資課題」について紹介した。

今回の講演会は主催がスペーシャリストの会東北支部と日本測量協会東北支部、共催がジオメトリストの会東北支部と測量設計業協会。参加者には測量CPDの4ポイントと、建設コンサルタンツCPDの3・66ポイントが付与された。